

はまざき としはる
浜崎 俊治 氏（川崎市教育委員会地域教育推進課）
演題：地域の教育力向上に向けて ～寺子屋事業の活動から～



ごらい まなぶ
牛来 学 氏（南相馬市教育委員会生涯学習課）
演題：地域で子どもたちを育む「地域学校協働活動」の取り組み



たかば かずよ
竹迫 和代 氏（公財かわさき市民活動センター理事長）
演題：地域とつながるこどもの居場所～こども文化センターの取組



の の むら なおと
野々村 直登 氏（公財かわさき市民活動センター青少年事業課）
演題：地域とつながるこどもの居場所～こども文化センターの取組



さいとうみのる
齋藤 実（NPO法人南相馬サイエンスラボ理事長）
演題：食・エネルギー・水の自給と物質循環の
重要性を学ぶ親子体験教育活動



はこざき りょうぞう
箱崎 亮三（NPO法人南相馬サイエンスラボ副理事長）
演題：学びが続く地域の条件とは何か― 地域学校協働活動を通して―



第7回 地域教育を考える勉強会 ～幸せをつくる教育～

日 時 令和8年 2月28日（土）

AM 9:00-AM12:00

場 所 南相馬市馬事公苑 研修室

お問合せ TEL/FAX 0244-26-6286

携帯 080-3340-8426（齋藤）

sciencelabo2011@gmail.com

参加費無料
申込不要



主 催：NPO法人南相馬サイエンスラボ
後 援：南相馬市教育委員会
助 成：地球環境基金



浜崎俊治氏：川崎市教育委員会地域教育推進課 指導主事

担当：地域の寺子屋事業 子ども会議 地域教育会議

経歴：川崎市の教員として20年勤務後、令和6年度から教育委員会へ

要旨：地域教育推進課の事業を、寺子屋事業を主に説明しながら、地域の教育力を向上させるために必要なことを伝える。

牛来学氏：南相馬市教育委員会生涯学習課

福島県南相馬市生まれ。再任用職員の社会教育主事として南相馬市教育委員会に勤務する傍ら、東北大学院教育学研究科博士課程に在学し、「生涯学習・社会教育」を中心とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の研究活動を実践している。特に令和4年度から、学校と地域の連携・協働による「地域学校協働活動事業」に着手し、令和7年度、市内全11校の小学校で実施に至る。地域全体で子どもたちの成長を支える取組みに尽力している。

竹迫和代氏：（公財）かわさき市民活動センター理事長

（公財）かわさき市民活動センターは、川崎市の市民活動推進と青少年健全育成の2本柱を推進する中間支援組織です。弊社が運営する41館のこども文化センターがそれぞれの地域で取り組んでいる地域連携事業を紹介し、①これからのこどもの居場所の在り方と、②地域のハブ拠点をめざし変革に取り組む現状をお伝えします。あわせて、そのベースとなる考え方としての③「参画教育理論」についても紹介したいと思います。

野々村直登氏：（公財）かわさき市民活動センター青少年事業課

（公益）かわさき市民活動センターの職員として勤務し、今年で15年目を迎える。こども文化センター館長を経験した後、令和6年度より本部配属となる。学生時代、地域の方と子どもの居場所を立ち上げた経験を活かし、こども文化センターの新たな可能性を考えることに尽力している。

齋藤実：NPO法人南相馬サイエンスラボ理事長

福島市生まれ。幼い頃の夢は「生き物博士」。理学博士の学位を取得後に全国の大学や企業でバイオ医学分野の研究に従事。会社の倒産を機に先祖の家系図を元に自分のルーツを探るため南相馬市に移住。翌年に南相馬サイエンスラボを設立し、身近なものを科学する体験教育活動を開始。今回は震災の経験から人間が生きていくために必要だと感じた食・エネルギー・水の自給の重要性を学ぶ体験教育活動について紹介する予定。

箱崎亮三：NPO法人南相馬サイエンスラボ副理事長

南相馬市には千年にわたり受け継がれてきた地域協働があり、震災前の平穏な時代にも、震災後の有事を乗り越える過程にも、その積み重ねがあります。そこに地域固有の資源が生まれ、これはどの地域にも存在します。地域学校協働活動は、こうした資源を生かし、学校だけでは得がたい体験的な学びを地域と共に継続する取組と理解します。人が動き、感じ、考える学びを次代へつなぐことの大切さを皆様と考えていきたい。